令和4年度　学校関係者評価書（様式）

鈴鹿市立長太小学校　　NO. 1

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	①「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チエック」の結果の分析及びワークシート等の活用。 ⇒ 全体研修会（自校採点を含む）は年3回。過去問題を解いたりワークシート等を宿題にしたりする取組は年数回。 ②「伝え合う力」の向上,学力向上を中心に据えた校内研修の推進。 ⇒昨年度から、国語科を中心に校内研修を行う。全体研修会は年３回開催･公開授業は年１１回実施。 ③家庭での学習習慣の定着・確立 ⇒「家庭学習の手引き」の作成･配付。実施率は80％以上。 （成果と課題） 〇６年の「全国学力･学習状況調査」、５年生の「みえスタディ・チェック」は県平均を下回った教科が多かった。全職員で採点にあたり、分析から得られた強み・弱みを意識した授業改善につなげてきた。 〇「校長先生にチャレンジ」として、４～６年生が過去問に触れる機会を数回設定した。 〇年１０回の「伝え合う力」の向上・学力向上のための全体研修会の開催・年１３回全担任による公開授業の実施（市教委の指導主事を招聘した研修会を含む）により、授業改善を図ることができた。特に夏季研修会においては、国語科の授業についての校内研修会や各学年の教材研究等を深く行うことができた。 〇「家庭学習の手引き」の作成･配付等の取組により、家庭学習の定着を図ることができた。「家庭学習の手引き」を各教室に掲示し、子どもたちに家庭学習の大切さを常に意識させた。 〇今年度は学期ごとの家庭学習チェックを行わなかったが、家庭学習を毎日課し、学習に向かう習慣づけをおこなった。その成果として学力が向上した。 〇今年度から火曜日、金曜日の朝の学習（１５分間）に綴りの時間を設定し、学校全体で取り組んだ。その成果として、「書く」力は向上した。 ●教師の出す家庭学習はやってくるのだが、自主学習をやってくる児童は少ないのが現状である。 ●今後も学校全体で、児童の「伝え合う力」の向上、学力向上に向けた取組をより一層進めていく必要がある。特に、家庭学習については、「家庭学習の手引き」の作成･配付等の取組だけでなく、家庭でのゲーム･スマホの使用の仕方等について、他機関とも連携しながら啓発していく必要がある。	① ・授業研究は，先生方の資質向上に欠かせないもの。長太小の取組は高く評価できる。 ・個々の子どもに能力，意欲，集中力に差があるのは厳然たる事実であるが，いかにして子どもの能力を伸ばすかは，学校教育の永遠のテーマである。 ・かつての教師主体の一斉授業だけでは，克服できない。いかにして個別指導の時間を見出し，意欲を引き出し，子どもたちを学び合わせるのか。独創的な授業を生み出す勇気と個々の児童の特性を見つめる優しい目を持っていただきたい。 ・正しい生活習慣や毎日決まった時間に継続して学習に取り組む習慣を身につけさせる。 ・児童には，全国学力・学習状況調査及びみえスタディ・チェックなどの結果分析を見て，自分の学力を知り，学習の大切さを十分意識して取り組んでほしい。 ・子どもたちが学習する中で，担任，教科の先生との関わりが主となるので，「校長先生にチャレンジ」としての取組は続けてほしいと感じました。 ・全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックでは，見慣れない問題に戸惑う子どももいると思います。過去の問題を解くことで，少しでも自信を持ってテストに向かえるようになると思います。今後も継続してほしいです。 ・基礎学力の向上に向けた取組で，「全国学力・学習状況調査」「みえスタディ・チェック」の結果を分析し，校内研修や授業改善，家庭学習の定着に力を入れてきたことは，今後の学力向上にきっとつながる取組だと思う。 ② ・家庭学習の充実は，良いことだと思うが，共働きの核家族が大半となり，子どもの学習まで手が回らない親の事情も理解できる。家庭学習が親の負担になることは避けたい。 ・家庭で読書の習慣がつくとよい。絵本の読み聞かせや児童図書の紹介や貸出しを積極的にお願いしたい。 ・達成感を得られるようにする。 ・「伝え合う力」の向上については，自分の考え，思いを相手に伝えるにはどうしたらいいのか，しっかり取り組んでほしい。 ③ ・近年は，学校に対する世間の風当りが厳しく，教職員の精神的な負担は増えているはずなので，授業以外の仕事の軽減をお願いしたい。 ・学力向上には家庭学習は欠かせない。習慣づけることや，短い時間朝などに必ずやるなど，家庭での約束をするしかないのではないか。 ・復習を重視する。 ・教師が一生懸命色々な事に取り組んでも，家庭でも宿題チェック，クロムブック持ち帰り内容チェックなど，家庭の協力がなければ学力向上にはつながらないのではないか。 ・家庭内での学習の取組の問題点は，長い目で見て子どもたち自身で気づいていかないと，なかなか改善されないと思います。「考える力」「計画を立てること」の目標が必要。 ・学年が上がって，どういうことが出来るようになると良いか，具体的に表現していただくと伝わりやすいのかな，と思いました。 ④ ・近年の傾向から，年少児童の学習能力の低下（通常の授業についていけない，参加できない等）について，具体的にどのような対応をしているか。 ・保育要録等の具体的な活用について，具体的な取組や活用方法について知りたい。 ・時代の変化で子どもたちの勉強内容も多種多様化している中，先生も大変だと思うが子どもたちの学力向上に向け，よろしくお願いします。	・学調やみえスタディ・チェックで子どもたちの弱みを分析し、授業改善に取り組んできた。その成果が徐々にでるが学力向上につながっている。今後も続けていく。 ・過去に出された問題の中から、長太小の子どもたちが苦手とする問題に取り組ませる。 ・校長先生にチャレンジ問題は、今後も続けていく。校長先生からは長太小の子どもたちにとって弱みのある問題を取り上げていただいている。子どもたちも校長先生からの問題とあって、必死で取り組んでいる。また、校長先生に直接採点してもらうことでさらにやる気を引き出していく。間違った問題は、直接校長先生のところへ持っていく姿が多く見られた。 ・全員が授業研究に取り組む。教材研究、指導案など全員が一丸となって子どもたちに力をつけるための授業を創っていく。 ・今後も、子どもたちにしっかりと寄り添う教師集団を目指す。 ・「伝え合う」に関しては、今後も研究主題の中心に据え、授業を構築していく。そのためには、まず「聞く」ことを大切にしていく。また、語彙数を増やす取り組みも進めていく。この研究主題は、全教科、全領域につながっている。 ・人権部、生活指導部と連携を密にして、学校運営に取り組む。 ・今後、授業でも仲間づくりをしていく。 ・「学習の手引き」をクラスにも掲示し子どもたちの意識を持続させる。各学期にある家庭学習チェックの時期に、クラス掲示した「学習の手引き」を確認して、意識づけていく。 ・子どもたちのゲームや動画視聴時間は、年々増えている。学校だよりや学年通信、保健だより、授業等で保護者に啓発していく。 ・子どもたち一人ひとりに寄り添い、フォローし丁寧に指導し続けることを大切にしていく。 ・授業参観時など、運営委員の方も保護者といっしょに授業参観をしていただく。 ・事前に保育要録も読み込んで参考にしているが、集団生活が始まると想定外のことが起こることが多いのできめ細やかな指導まですることが難しい。保育要録と事前に行われる支援に対する引継ぎをしっかりするとともに、目の前にいる子どもたちをじっくりとみて指導に当たるようにしていく。
ICTの活用	〇ＩＣＴ機器の効果的な活用 ⇒校内研修に位置付けて行う。 ⇒授業において子どもたちにクロームを活用させる。 ⇒学年の実態に応じて、日常的にクロームを持ち帰り、家庭学習で活用。 〇研修にICTを位置づけたため、教師の意識も高まった。授業においても、子どもたちがクロームを使う機会を増やしたため、操作や学習に慣れてきた子どもが増えた。	・「伝え合う力」とても大切だと思います。SNS等により，短い言葉でのコミュニケーションが増えていると思われるので，より深く相手に伝え，理解できるようになるよう御指導いただけたらと思います。 ・家庭学習・オンライン授業にクロムブックを活用することは，子どもたちにとって楽しく，わかりやすい学習・授業になるのではないか。一方で，すべての児童がクロムブックを使いこなしているのかが心配。 ・クロムブックの活用で，学習の幅が広がり良かったと思います。「書く」力もとても必要なので，綴りの時間は大切だと思います。 ・クロームブックをスムーズに操作している姿が印象的でした。運営委員もICTを活用した授業を見せていただく機会があっても良いのかなと思います。 ・クロムブックの活用についても，積極的に取り組んでいただきたい。 ・保護者がスケジュール管理や精神的なケアを行っていくことが大切。	・今年度は計画的にICT機器を使い、目で見てわかりやすいような視覚支援を行ってきた。今後もこのような活用をしていく。 ・ICT機器を使って家庭学習にも取り組んでいる。今後は、各学年でどのような家庭学習にICT機器を活用したのか、どのような課題を課したのかを一覧表にまとめるなどして、来年度からの参考にしていく。 ・リモートでのオンライン授業に子どもたちも教師自身も慣れることが大切である。今後もスムーズにオンラインができるよう準備しておく必要がある。 ・ICT機器は、まず慣れさせることから始める。ローマ字で入力させるため、タイピング練習にも取り組ませる。 ・３～６年生は２月半ばからクロムを毎日持ち帰り、長期休みもクロムを持ち帰り、学習の向上につなげている。クロムを持ち帰ることで、自主学などで、調べ学習につながっている。
不登校	〇自己肯定感や共に生きる心の育成。 ⇒仲間づくりを意識した学級経営や教職員の情報共有、組織的な対応により、児童の自己肯定感の向上を図った。 〇仲間づくりの授業を進めるための研修会，実践交流会の開催。 ⇒年間を通じて定期的な研修を行い、教職員の指導力向上を図った。 〇ＳＣによるやＳＳＷ及び関係機関との連携。 ⇒スクールカウンセラーによる保護者（児童）の相談会を定期的に実施した。（年間11回実施：1回あたりの相談者平均5名） （成果と課題） 〇不登校、登校渋りの児童は全体的に増えている。登校が難しい児童もいるが、短時間でも学校に来ることができたり保健室登校ができたりしている。また、登校渋りの児童も、保護者との連携で登校につなげることができている。運動会、音楽会、宿泊学習等の行事で、登校しにくい子どもを意識した取組や、登校につながる働きかけをすることができた。 〇日々、仲間づくりを意識した学級経営を行えた。人権部主催でレポート研修会や事例検討会を行い、教師の意識や技量の向上を図れた。 〇毎週火曜日、朝の学習で作文を書く取組で、子どもをつかみ、子ども同士をつなげることができた。 〇児童の様子を三部会や職員会議で交流し、全職員で子どもの実態把握ができた。 〇子ども家庭支援課やSC等、関係機関と連携しながら，児童の支援や家庭の支援を進めることができた。 ●諸機関と連携することは有効であるが、子ども自身の課題や保護者や家庭の問題を改善していくには時間がかかる。	・児童が学校に来たくなるような仕組み作りができるとよい。例えば，美術活動や楽器演奏，園芸活動やアウトドアの基礎知識の習慣等のように，授業以外で学校へ来る機会を作れるとよい。 ・社会構造の変化もあって，昔のような子ども社会の体験がないまま入学してくる子どもが多い。不登校児童には，学校という環境に慣れさせるため，教室以外の場所を提供することが必要である。 ・不登校問題は，あまり地域に知らされていない。地域として，個々の事案について何をすべきか，わからない面が多い。 ・現状の取組を根気よく進めてほしい。 ・不登校に対応する教職員のスキルアップをするといった対策が必要ではないか。 ・「不登校対策」は，一年生入学時から親子共に心の育成，仲間づくりをしっかり考えてもらいたい。 ・一人ひとりの児童を学校内の先生方全員で見て，実態把握していただくことは親にとっても子どもにとっても安心なことなので，引き続きお願いしたい。 ・保護者・子どもたちに何かあれば，いつでもすぐに相談できるよう，子ども家庭支援課，SSWと連携しながら引き続き支援をしてもらいたい。 ・先生方の日頃の努力に感謝します。子どもたちが進んで登校できる学校づくりをお願いします。 ・不登校，登校渋りの児童は，何かしらの理由があると思うので，「学校へ行こう」は，最終目的として，まずは気持ちがつながるよう働きかけると良いのかな，と思います。自分自身が経験してしないので，保護者の方の気持ちも考えて寄り添うことができると良いです。 ・不登校は複数の要因が関わっていて，対応される先生方のご負担も大きいと思いますが，今後も関係機関の方々と御協力いただき，学校がより多くの子どもの居場所になるよう願います。 ・不登校や登校渋りの原因は学校生活だけではなく家庭生活にあることも多く，的確に把握することはなかなか難しいと感じている。仲間づくり，学級づくりももちろん大切だが，まず第一は信頼できる大人の存在で，担任に限らず，その児童の小さなサインを見逃さず静かに関りを持てるような教職員の存在が重要だと思う。 ・子どもの成育歴や家庭の状況については，健康づくり課（保健センター）や子ども家庭支援課など他機関と連携を取りながら情報収集をしていただき，途切れのない支援につなげていただきたい。家庭に精神疾患の既往症があると，小学生でもヤングケアラー的な役割を担っているケースがある。 ・学習の意義と目的を認識できるまで伝えることが大切ではないかと思います。	・今年度の取組を、今後も長期的なスパンで、粘り強く進めていく。 ・今年度から全学年で取り組んでいる綴り方で、子どもたち生活の様子や思いをつかんでいきたい。 ・スマートフォンやPCでのネット利用は、生活のリズムを崩す大きな原因となり、不登校とも深いかかわりがあると学校でもとらえている。このことについては、保護者に、ネット利用する子どもたちの危機的な実態を伝え、強く啓発していきたい。確実に多くの保護者に啓発する機会をもつために、授業参観のときに保護者と一緒に参加する学習会をもつなど考えていく必要があると考えている。
地域連携	〇学習支援ボランティアの活用 ⇒年度初めから実施。 〇鈴鹿市の子ども家庭支援課やスクールソーシャルワーカー，関係諸機関と連携し，長欠児童昨年度比25％減を目指す取組。 ⇒関係機関と連携し、必要に応じて支援会議を行った。	・家庭学習の定着は，手引きを作成したことで子どもや家庭への意識づけが出来たと思う。実施率８０％以上とのことであるが，家庭学習をしてこない，できていない児童の原因は何か。もし家庭い課題があるのであれば，そこを補足するような取組について，どのようなことが考えられるだろうか。放課後の自由学習時間（学習支援ボランティアの協力）や放課後子ども教室（まちづくり協議会＆公民館）などの検討はどうか。 ・学校，家庭，地域社会など，全ての関係者がそれぞれの役割を果たし，一体となって取り組むことが必要。	・学習ボランティアについては、来年度もぜひ実施していただきたい。今年度はコロナ禍にも関わらず１学期から行っている。ミシンを使用する授業に関しては、３学期も引き続き来ていただいている。今後も助けていただきたい。 ・学校関係者評価でいただいた声を、地域に確実に届け、地域全体の理解を求める。 ・今年度、昨年度に学校関係者評価でいただいた「教室以外の場所が必要」「学習支援をしてくれる公的施設ができるとよい」「不登校児童を支援する機関に委託する」等の意見を、市や県にも届けていく。